

幣塚〈ぬさづか〉（明石市魚住町清水）

むかしから、この塚〈つか〉には、金〈きん〉のにわとりがうずめてあるといわれていました。

明治十六年は、ひでりで、いねはかれ、十七年は二百十日の大風、十八年は、大水で、田はたは流されてしまいました。

毎年の不作〈ふさく〉で、村は大へんびんぼうになりました。そこで、

「この塚の金のにわとりをほり、村をすくおう。」

と、そうだんがきまり、ほりおこしました。人びとは、金のにわとりがでてくるのをまちかまえましたが、まが玉〈たま〉やくだ玉が百こばかりと、さびた刀〈かたな〉がでただけでした。

村びとは、がっかりして、ひざをついてしまいました。

（魚住村誌から）

